



学校だより

～学校評価特集号～

平成30年度 第6号
平成31年3月8日発行
香川県立聾学校

今回の学校だよりは、今年度の学校評価アンケートの集計結果について報告します。
アンケートへのご協力ありがとうございました。



各部の評価 <各部の評価について報告します。>

	目標（課題）	取組と結果	次年度の課題・改善策
幼稚園部	一人一人に応じたコミュニケーションの基礎の力の育成（意欲）（言葉）	○個々に応じたコミュニケーション手段を使用し意欲を高められるような体験活動を多く取り入れた。 ○話したい伝えたいという気持ちが高まり、子どものおしゃべりが増え、理解・表現できる言葉もそれぞれに増えた。	・一人一人に応じたコミュニケーションの基礎の力を育てるために、子どもの気持ちを尊重しながら、個に応じた働きかけを行う。
	一人一人に応じたコミュニケーションの基礎の力の育成（発音）（教員の専門性）	○常に、聞こえや発音、言語力の向上等を意識しながら関わった。子どもの話したい気持ちを大切にしながらの発音・言語指導には、より高い専門性が必要であることを改めて感じた。 ○様々な研修の機会を活用し、教員の専門性の向上に努めた。	・教員の専門性の向上を図るため、校内外の研修会を活用するとともに、部内での研修内容を工夫する。
	行事の検討	○教材等を共有しながら、それぞれの行事を実践することができた。	・スモールステップで個別の目標を作成し、できることを積み重ね、意欲とやる気を引き出し、自分なりに頑張ろうとする気持ちを育てる。

	目標（課題）	取組と結果	次年度の課題・改善策
小学部	基礎的な学力の向上	○自立活動の言語や教科等での指導に視覚的な日本語文法指導の内容を用いることで、授業理解を図った。 ○月に一度の部内研修会や授業参観する機会を設け、効果的な指導方法を求めた。	・言語活動の充実を推進し、様々なコミュニケーションの拡充を目指す。
	コミュニケーションの拡充	○話し合い活動や交流及び共同学習など、様々なコミュニケーションの機会を設定できた。 ○学級編成を工夫した結果、大人とのかかわりだけでなく子ども同士のやりとりやかかわりが増えてきた。	・視覚的に見て分かる日本語文法指導の推進を行う。
	望ましい生活習慣の形成	○「早寝早起き朝ごはん+歯みがきチャレンジウィーク」など、家庭とともに健康管理に取り組むことができた。 ○家庭や寄宿舎と協力して登校や就寝などの時刻を意識するよう取り組んだ。	・進路学習（キャリア教育）のあり方を検討し、実施する。

	目標（課題）	取組と結果	次年度の課題・改善策
中 学 部	生徒一人一人の実態に応じた学力の向上	○生徒個々に応じた指導が工夫され、それぞれに合った学習が展開された。生徒も「もっと質問をすればよかった」と前向きに取り組めた。	・生徒一人一人の実態をしっかりと把握し、それぞれに必要な学力を伸ばす。 ・音声を伴って、相手に分かりやすく伝えることを意識したり、聞き取りや読話の力を付けたりする。 ・進路指導部との連携をしっかりととり、適切な情報提供をすると共に、自立の力を育む。 ・教員の指導方針の共通認識を図り、保護者への説明を丁寧に行うことで、指導内容についての理解を深める。
	コミュニケーション能力の向上	○朝学習や帰りの会の前後などの隙間の時間を使って、言葉の学習をしたり、音声を伴った言語表現や聞き取りをしたりした。実施している時は、意識出来ているが、他の時間には、まだまだ応用できていない。	
	生きる力・自立の力の育成	○職場体験学習等を通して、自分に足りないところを考えたり、卒業後の自分を思い描いたりすることができた。 ○実際の体験自体は、それぞれよく頑張っていたが、それに取り組む姿勢はまだ受け身の生徒が多い。	

	目標（課題）	取組と結果	次年度の課題・改善策
高 等 部	個に応じた学習内容の設定	○各3年生が希望する大学進学や就職先を決めることができた。 ○各教育課程において個の多様性に応じた授業内容を考え、分かりやすい授業が概ね展開できたが、ICT 機器など視聴覚教材を用いた授業展開は研究の余地がある。	・各教育課程と個に応じた指導内容をさらに検討した上で、ICT 機器や視聴覚教材を効果的に活用した授業展開を研究・開発する。 ・個に応じた必要な支援や環境を考え、部会等で情報の共有を図り、高等部全体として取り組む。 ・卒業後の生活を踏まえた望ましいコミュニケーションスキルを検討し、部活動や現場実習、校外学習での場面設定を行う。
	望ましい対人関係の構築	○場面に応じたコミュニケーションの使い分けやマナー、情報保障を依頼する力をつけることをめざして取り組んでいる。 ○教員が手指メディア等で積極的にコミュニケーションをとることで活発な会話をする場面が見られるようになった。	
	部活動による自主的な活動の推進	○各自の目標を達成するために必要な課題を意識して練習活動に参加できている。 ○様々な大会に参加し、試合を経験することによって技術的・精神的な成長が見られた。	

